

# 長畝ふるさと通信

【2014年6号】

## ■ 梅雨入りしたとは言うものの…



今年は昨年より5日早い、6月13日に梅雨入りしました。とは言うもののまとまった雨は一向に降らず、田植え以降の降水量は平年を大きく下回っています。今のところ何とか田んぼの水は確保されており、苗の生育も順調ですが、昨年のように7月は雨ばかりといった状況も予想されます。ゲリラ豪雨や季節外れの「雹」が降ったりと日本各地で災害も発生しているようですが、佐渡は至って静かです。

## ■ 溝切り・草刈り・溝切り・草刈り…の毎日

6月中旬から「中干し」に入りました。一旦田んぼの水を抜き、苗の生育を抑制しながら(この時期に苗ばかり成長すると過剰に養分を摂取してしまい、肝心のお米になるための養分が行き渡らなくなってしまう)、土の中に酸素を供給して根を元気づけます。同時に「溝切り」をして、中干し後の田んぼへの給水を速やかに行えるようにしていきます。



溝切りは写真のようにバイク式にまたがって自走する「のるたん」が主流となり、これまでの重労働だった手押し式溝切り機はすっかり影を潜めてしまいました(ちなみに価格は1台約15万円也)。梅雨とはいえ、毎日暑い日が続き、午前中は溝切り、午後は草刈りの地獄のパターンは結構きついです。田植えで日焼けした肌は一旦元に戻ったものの、またまた真っ黒け。百姓の証ですな…

草刈りは1年で一番多い仕事です。田植え以降刈り始めた畦草は1ヶ月で伸びてしまいます。畦に除草剤を散布すれば楽ちんですが、それでは畦が茶褐色になってしまい景観も損ねます。また、畦にはカエルやクモなどたくさんの生きものたちが暮らしています。農薬を撒いて住み処を奪ってしまえば「朱鷺と暮らす郷」や「生きものを



育む農法」などは成り立ちません。「佐渡の百姓は体力が続く限り、除草剤は使わない」と勝手に思っているのですが、高齢化は深刻な問題として受け止めなくてはなりません。組合ではトラクターに草刈りアームを取り付けたもの(左写真)もあり、作業の省力化に貢献しています。

## ■ 大豆もトマトも…



5月下旬には大豆を播種し、トマト苗を定植しました。大豆は約10ha、うち年末に皆さんにお届けしている「青豆・岩手みどり」も2haほど作ります。播種から1ヶ月経過して現在は左写真の通り鮮やかなグリーンが整列しています。トマト苗はハウス2棟に950本程定植しました。昨年まではミニトマトを栽培していましたが、今年はあるトマトジュースで有名な「カゴメ」との契約栽培で生食用の中玉トマトにチャレンジします。現在ようやく1段目の花が咲き始めたところで、8月中旬には収穫できる模様です。これから夏に向けてハウス内の作業は日中NGなので、早朝5時半から作業をしています。(とは言っても日中も田んぼで作業するのですが、ハウスの中よりはマシです)

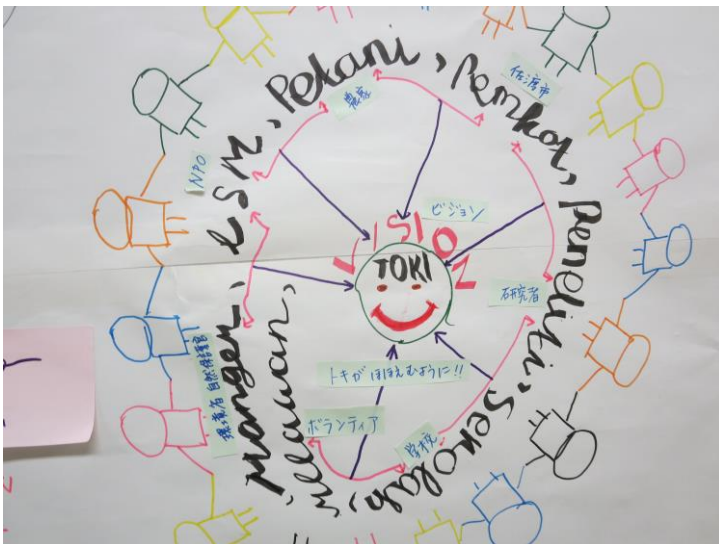
## ■ インドネシアから研修にみえました

JICA(ジャイカ・国際協力機構)経由でインドネシアの視察団が佐渡を訪れてくれました。日本で言うところの環境保護レンジャーにあたる仕事をしている方々だそうで、佐渡におけるトキ野生復帰の取り組みについて研修されたそうです。当組合にも来られ、環境保全型農業の取り組みやコメの販売状況など熱心に質問されました。「今後益々厳しくなる農業をこれからも続けますか」との問いに



「この道しか生きる道がありませんから」と応えると、日本語で「ガンバッテ」と励まされる場面も。当初の約束は1時間でしたがほぼ倍の時間、質問攻めに会い、インドネシア語を堪能した次第です。

後日、研修のまとめ報告会に招待され、彼らの描いた絵(下写真)にびっくり。そこには「トキが頬笑むように市民、農業者、研究者、学校、ボランティア、NPOなど様々な自主活動体が相互に機能していく事が、結果として佐渡に明るい将来をもたらしてくれる」といった内容がわかりやすく描



かれていたのです。これまでにトキの野生復帰に関わるたくさんの資料やパンフレットを見てきましたが、一番コンパクトに的を得た絵だと思いました。「この絵を市長に100万円で買い取らせませう」と言うと大喜び。「日本人は皆まじめだと思っていたが、そうでない人もいた」とお褒めのお言葉を頂きました。佐渡の将来について島民はもっと話し合うべきですね。

## ■ 26年産もご愛顧願います！

「田んぼを守ることが、トキを守ることであり、佐渡の将来を守ること」と、あらためて気づかされました。みなさんはその田んぼで取れたお米を食べ続けることで、佐渡を応援して欲しいと思います。来月には26年産米の年間予約をお願いする予定です。是非ご協力下さい。